

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

重要港湾舞鶴舞鶴港特別整備工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)201

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								1.8
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
2 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能					0.43			2.6
1 機能性				1.5	0.40			1.5
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性				1.0	0.50			
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画				1.0	1.00			
1.3 維持管理				2.0	0.50			
1 維持管理に配慮した設計				2.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				2.8	0.31			2.8
2.1 耐震・免震				3.0	0.48			
1 耐震性				3.0	0.80			
2 免震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.27			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.27			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.18			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.27			

2.4 信頼性			2.2	0.19		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		1.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			4.1	0.29		-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31		-	
1	階高のゆとり	収容物の関係上、天井高さを水下:7.8m 水上:12.7m確保している 間仕切壁のない大空間を確保している。	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		倉庫として不足の無い設計荷重を確保している。	4.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.9	0.38		-	
1	空調配管の更新性		-	-		-	
2	給排水管の更新性	内装仕上を設けていないため露出配管となっている。	5.0	0.27		-	
3	電気配線の更新性		-	-		-	
4	通信配線の更新性		-	-		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.36		-	
6	バックアップスペース	変電設備について将来的な増設を考慮した空間となっている。	4.0	0.36		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	1.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			1.0	0.40		-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30		-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	2.8
LR1 エネルギー			-	0.40		-	2.8
1 建物の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			4.0	0.29		-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトを設けている。	4.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電設備を設置している。	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化			2.0	0.43		-	2.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=0%	2.0			-	
集合住宅の評価						-	
4 効率的運用			3.0	0.29		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.7
1 水資源保護			2.2	0.15		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63		-	2.7
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.21		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	構造体及び設備配管が慮出となっている。	4.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	1.00		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-		-	
3	冷媒		-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.9
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮			2.8	0.33		-	2.8
2.1	大気汚染防止	非居室のため大気汚染の発生源となる燃焼機器を設置していない	5.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-		-	
3	交通負荷抑制	敷地面積が広く、駐車、駐輪、荷捌きスペースが確保できる。	4.0	0.50		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.50		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	発光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	